

支援・進路部通信

NO. 2

令和7年7月18日

東京都立調布特別支援学校長

中村 由美子

支援・進路部 加藤 幸吉（文責）

「暑い夏」が当たり前になり、外出することが慎重になりがちかもしれません。と同時に、長く思いに残るような、日常とは異なる経験ができるのも夏休みです。外出やいろいろな人との出会いは、社会性を育むことにもつながります。充実した夏休みとなるよう願っております。そして2学期、元気に登校してくる姿を楽しみにしています。

さて、支援・進路部通信 NO. 2 は、各学年の学習の様子を中心にお伝えします。

今学期も、支援・進路部への御家庭、関係の皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。

＜ 中3 就業体験 ＞

5月21日（水）から3週に分けて、就業体験を行いました。今年度も「社会福祉法人調布を耕す会しごと場大好き」と「オーケーストア調布店」の2か所で体験をさせていただきました。

「職業・家庭」の授業で、事前学習として昨年度の3年生の体験の様子の写真を見ました。各事業所での仕事内容を知り、体験について具体的なイメージをもったうえで、当日に臨むことができました。

「しごと場大好き」では、職員の方から「くみひも」の作業を一人ずつ丁寧に指導していただき、くみひも作りを行いました。「オーケーストア」では、実際に店舗に出ての商品品出しや補充作業、バックヤードでの買い物かごの消毒やレシピカードを切り離す作業を行いました。

いずれの体験も生徒たちにとっては初めてのことばかりでしたが、緊張感をもって仕事にチャレンジする様子が見られ、事業所の方からも高い評価をいただくことができました。

この体験を通して、挨拶や返事、身だしなみなど、社会で働くうえで大切なことを改めて再認識し、今後の学校生活でも意識して指導していきたいと思います。

＜ 小6 校内郵便局の活動 ＞

「校内郵便局を開こう」という単元で職員室前に大きなポストを設置して、全校児童・生徒、教職員からはがき（手紙）を集め、配達を行いました。

「郵便局ってどんなところ？」「どんなお仕事をしているの？」という仕事内容の学習から始まり、郵便局を開局するために様々な役割に分かれて準備をしました。大きなケント紙をはがきサイズに切るチーム、切手用シールを切るチーム、配達用のポストを製作するチームなど、自分の役割に責任をもって取り組むことができました。たくさんの準備をして、いざ校内郵便局を開局！ 児童・生徒や先生方が書いた手紙がたくさん集まりました。集まった手紙の回収・消印を押す・仕分け・配達という一連の流れを全て児童が行いました。初めは難しかった仕分け作業も、友達と協力して学年ごとに仕分けできるようになりました。各学年の教室前に設置されているポストに手紙を配達する際に、「配達、頑張っているね」と先生に言葉を掛けられ、誇らしげな顔で自分の仕事を全うする児童の姿はとても良かったです。

手紙を届け、誰かに感謝されるという経験を通して、自分が任された「お仕事」が誰かの喜びにつながっているということを実感できたことと思います。この活動で児童は、たくさんの「できた！」という経験をられました。この自信をもとに、今後も様々なことにチャレンジしていけると思います。

授業参観期間に手紙を書いてくださった保護者の皆様、御協力いただきありがとうございました。

< 小3 学校間交流 >

6月6日（金）、18日（水）の2日間で、狛江市立緑野小学校と交流学习を行いました。

1回目は、お互いの自己紹介から始まりました。大勢の友達を前に、少し不安げな様子の児童も見られましたが、練習どおりに自己紹介をすることができました。練習を続けてきた「忍者ダンス」の披露をしました。「忍者ダンス」を踊ることが大好きな児童が多く、楽しそうに踊る姿が印象的でした。その後、緑野小の児童も一緒にポッチャやパラバルーンも楽しみました。交流の終わりには「楽しかった！」という、うれしい声がたくさん聞こえました。

2回目は、緑野小学校の児童の皆さんが、プレゼントや緑野小学校クイズで楽しませてくれました。そして、緑野小の児童も一緒に「忍者ダンス」を踊り、楽しく盛り上がりました。選ばれた児童が皆とハイタッチをするゲームで、本校の児童が選ばれたときには、緑野小学校の児童が優しく手を取って、リードしてくれました。「もう1回やりたい！」の声が多かったポッチャも行い、2回目の交流学习も楽しく終わることができました。

今回の交流学习を通して、本校の児童が緑野小学校の児童のそばに行って関わろうとしたり、緑野小学校の児童はそれに応えて名前を呼んで、手を取ってくれたりと、お互いが進んで関わろうとする姿がたくさん見られ、ほっこりと優しい気持ちのあふれた交流学习となりました。

< 中学部学校間交流 >

6月27日（金）、中学部1年生と3年生が、調布市立第七中学校の体育館で交流学习を実施しました。

交流の事前学習は、1年生と3年生で「ポッチャ」の合同練習を行いました。「ポッチャで、どうすれば、3点を取れるか」と考え、投げ方を工夫するようにしました

当日、第七中学校の生徒は1年生134名が参加し、代表生徒が全体の司会進行をしました。調布特別支援学校の中学部3年生は学校紹介を、1年生は終わりの言葉を、皆の前で堂々と発表することができました。

「ポッチャ」の交流はグループに分かれて行い、本校、第七中学校の生徒が一人ずつ順番に、的に向かってボールを投げるというルールで行いました。本校の生徒は、何とか3点を取ろうと生徒一人一人が頑張り、1球投げるごとに歓声が上がり、皆で大いに楽しむことができました。交流終了後には、第七中学校の生徒が「とても楽しかったです。交流できてよかったです」と感想を述べていました。本校の生徒も、「また交流したいです」と言っていました。

11月には、本校を会場にして二回目の交流が行われます。内容は、合唱交流を予定しています。生徒たちも今から楽しみにしているようで、生徒一人一人が交流を深められる機会にしていきたいと考えています。

< トラサポ会議について >

家庭と教育と福祉が連携し、障害のある児童・生徒の支援の充実を図る「トライアングルプロジェクト事業」を受けた調布市、三鷹市及び狛江市の三市の障害支援課と本校が共催して開催する支援会議です。

夏季休業中に、中学部2年生の希望者を対象に実施します。本人、保護者、福祉機関（各市障害支援課、指定障害児相談事業所、放課後等デイサービス等）と学校（担任）が一同に会し、学校生活支援シート、個別支援計画等各種計画を通して、今後の支援について話し合います。

本校や高等部卒業後の生活を見据えて、今、そして今後どんな支援が必要か、御家庭、福祉機関、学校で考える機会にできたらと考えています。